

2012年5月14日

女子中高生の「正義感」に関する実態調査

# イマドキ女子中高生の約半数が“正義の味方”

女子中高生の96%が「友人がいじめられていたら助ける」と解答

< 調査結果の概観 >

1. 女子中高生の約半数が“正義の味方”

女子中高生の47%が、自分自身について「正義感が強い」と回答。< 図1 >

2. 8割の女子中高生がこの一年間で「いいこと」をした

この一年間で「いいこと」をした女子中高生は85%。< 図2 >

女子中高生がした「いいこと」の中身は「痴漢を撃退した」から震災関連の「募金」までさまざま。< 図3 >

3. 一方で、8割の女子中高生が「いいことをしたい」と思いつつできなかった経験をもつ

83%の女子中高生がこの一年間で「いいことをしたい」と思ったのにできなかった経験あり。< 図4 >

女子中高生が「いいこと」をできなかった理由の1位は「勇気がでなかった」< 図5 >

4. 9割の女子中高生が“正義の味方”であろうとする姿が浮き彫りに

96%の女子中高生が、「友人がいじめられていたら助ける」と回答< 図6 >

女子中高生の97%は、「友人が痴漢されていたら助ける」< 図7 >

94%の女子中高生が、「友人が万引きしていたらとめる」< 図8 >

5. もし、正義のヒーローになれたら...女子中高生の“正義感”は世界規模

正義のヒーローになれたら、「平和な世の中にする」「貧困をなくす」など

世界規模で活躍したい女子中高生が多数存在。

その一方で、「寝てる政治家をこらしめたい」「あんぱんをくばる」といったユニークな回答も。

森永製菓株式会社(本社：東京都港区芝、代表取締役社長：矢田雅之)の『ハイチュウ女子中高生応援委員会』では、ハイチュウが応援している全国の女子中高生が、日々どのようなモラルをもって生活し、また彼女たちがどんな「正義感」を抱いているのかという実態を把握するための調査を行いました。

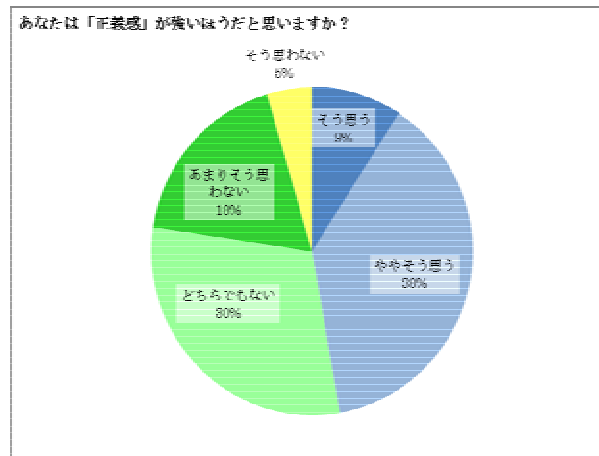
その結果、一見マイペースなイメージも持たれがちな女子中高生たちが、実際には強い正義感をもちつつ、その一方で「勇気が出ない」「恥ずかしい」などの理由からなかなか行動に移せないジレンマを抱えているという様子が浮き彫りとなりました。

ハイチュウでは、そんな彼女たちが気軽に楽しく「正しいこと」をできるように、CMキャラクターの関ジャニ が正義のヒーローとして活躍する映画『エイトレンジャー』にちなみ、女子中高生が正義の味方になれるアイテムが詰まったエイトレンジャー缶があたるキャンペーンを展開いたします。

ハイチュウ公式サイト <http://www.morinaga.co.jp/hi-chew/> (5/15 午後立ち上げ予定)

## 1. 女子中高生の約半数が「正義の味方」

図1 女子中高生の「正義感」に関する自己評価



まず、「あなたは自分自身について『正義感』が強いと思いますか？」と、正義感について自己評価を測る質問をしたところ、9.1%が「そう思う」、38.2%が「ややそう思う」と回答。合わせて47.3%と、半数近く的女子中高生が自己の正義感について肯定的に捉えていることが分かりました。

## 2. 8割の女子中高生がこの一年間で「いいこと」をした

図2 この一年間に「いいこと」をしたか

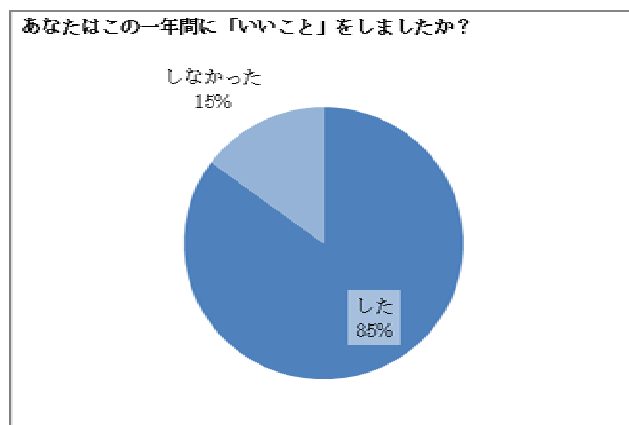
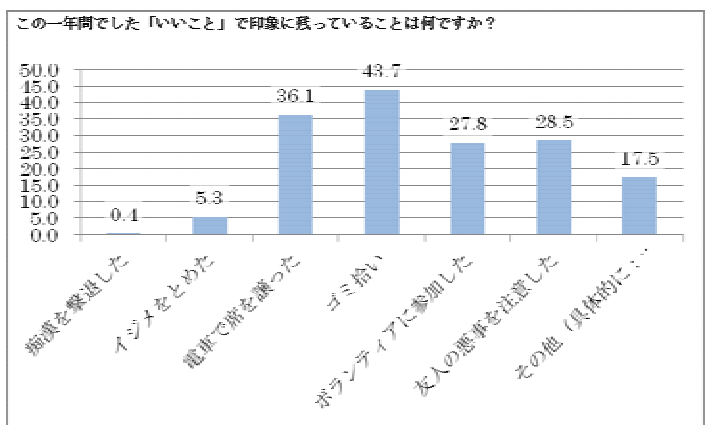


図3 女子中高生がこの一年間でした「いいこと」



「あなたはこの一年間に『いいこと』をしましたか？」という問いについては、85.1%の女子中高生が「した」と回答。非常に多くの女子中高生が震災以降のこの一年間で「いいこと」していることが分かりました。

「この一年間でした『いいこと』で記憶に残っていることを選択式で聞いたところ、1位が「ゴミ拾い」で43.7%、2位が「電車で席を譲った」の36.1%。自由回答では、「痴漢を撃退した」「喧嘩を仲直りさせた」など勇ましいものや、震災関連の寄付や募金など社会の動きを敏感に汲んだもの、「虫を助けた」「(友人の)告白を手伝った」など可愛らしいものまでさまざま。女子中高生のリアルな日常が垣間見られる回答が寄せられました。

## 3. 一方で、8割の女子中高生が「いいことをしたい」と思いつつできなかった経験をもつ

「この一年間で、『いいことをしたい』と思ったのにできなかった経験はありますか？」との質問に対し、82.5%の女子中高生が「ある」と回答。次いで「なぜ『したい』のに『できなかった』のか」理由を問うと、女子中高生の1位が「勇気が出なかったから」(74.1%)、2位「恥ずかしかったり、照れてしまったから」(45.9%)。最初の問いである「正義感の自己評価」と比較すると、「自己評価以上に、日々正義に前向きな女子高生」の姿が浮き彫りになりました。

図4 「いいことをしたい」のにできなかった経験

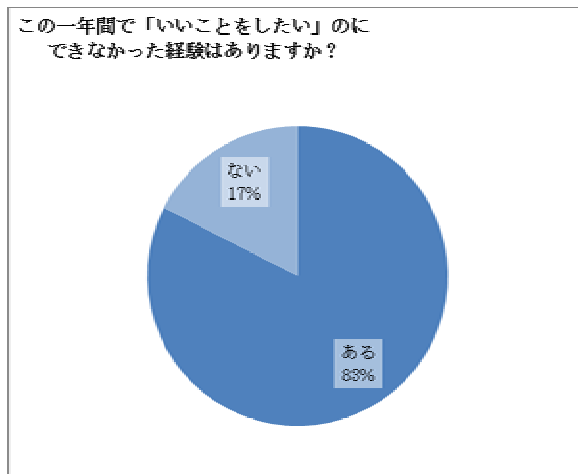
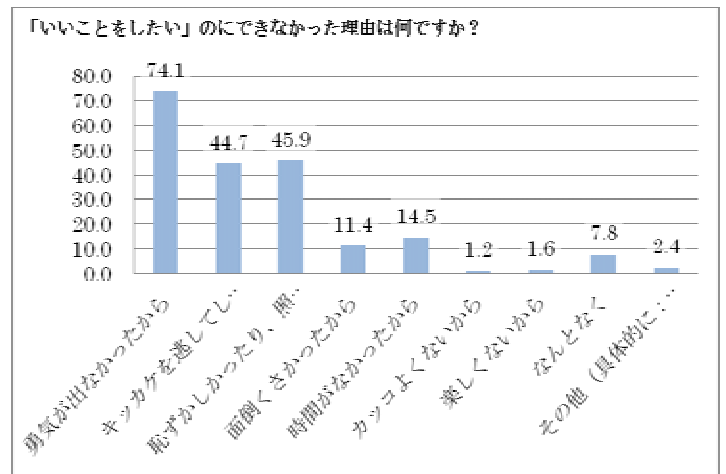


図5 「いいことをしたい」のにできなかった理由



#### 4. 9割の女子中高生が“正義の味方”であろうとする姿が浮き彫りに

図6 友人がいじめられていたら助けるか

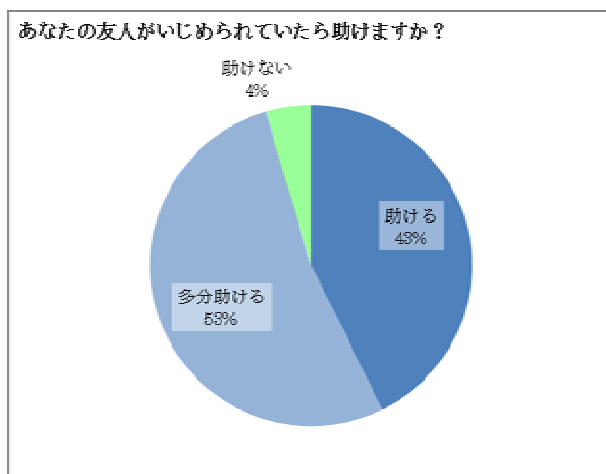


図7 友人が痴漢されていたら助けるか

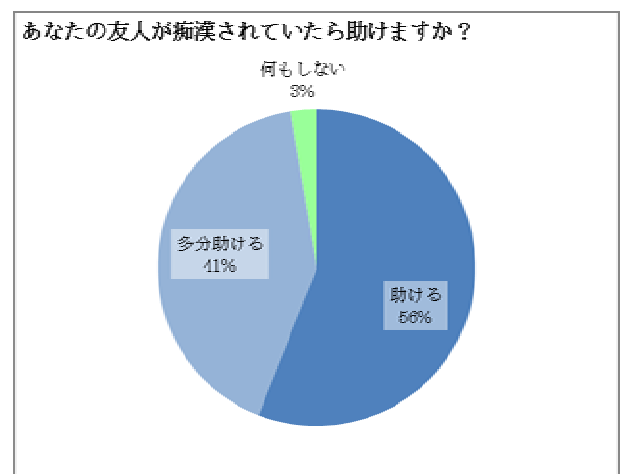
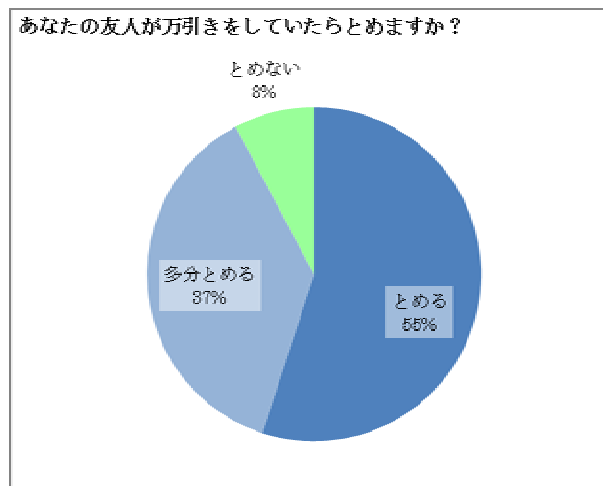


図8 友人が万引きをしていたらとめるか



「あなたの友人がいじめられていたら？」という質問には「助ける」(42.7%)、「多分助ける」(52.8%)。同じように「あなたの友人が痴漢されていたらどうしますか？」では、「助ける」(56%)、「多分助ける」(41.4%)で合わせて97.4%の女子中高生が強い正義感を示しました。反対に「あなたの友人が万引きしていたら」と身近な人の悪事に対しても「とめる」(55%)、「多分とめる」(37.2%)と、いずれもほとんどの女子中高生が高い正義意識を持っていることが判りました。

## 5. もし、正義のヒーローになれば・・・女子中高生の“正義感”は世界規模

最後に、「もしあなたが正義のヒーローになったら、何がしたいですか？」という問いを自由回答式で実施しました。

多くの女子中高生が

- ・世界を変える！まずそのために日本の法律を変えたい！
- ・世の中のくだらない利権争いなどをとっばらって、誰も悩んだりしないでいい世界を作る
- ・インドなどのレンタルチルドレンや働いている子供たちを助けて、自立できるようにしたい
- ・貧しい国の人たちの力になりたい
- ・戦争をなくす！

など、非常に大きな視点で正義を実行したいと考えていることがうかがえました。また、「地域のマスコットキャラみたいなのになりたい」「あんぱんをくばる」「人を助けて、お菓子をいっぱいもらおう」「空を飛んでパトロール！」などユニークな回答もちらほら。

### < 調査概要 >

調査主体：森永製菓株式会社 『ハイチュウ女子中高生応援委員会』

調査時期：2012年5月10日（木）

調査対象：全国の女子中高生 計300人

[内訳]（単位/人）

女子 中学生12-15歳 150

女子 高校生15-18歳 150

調査方法：アンケート調査（インターネットによる）